

2017 8/8

No.2048

毎月第2・第4火曜日発行

政経 かながわ

一般社団法人
— 神奈川政経懇話会 —



高校野球の第99回全国選手権神奈川大会は7月29日、横浜市中区の横浜スタジアムで横浜―東海大相模の決勝が行われ、横浜が9―3で東海を下して2年連続17度目の優勝を飾った。



contents

視点・点描	3
気になる市長選挙の結果	
国際	4
「ルポ」忍び寄る「イスラム国」、 比の町を占拠して2カ月余	
社会	8
育児に男性がもっと関わるには パートナーと話しませんか	
企業最前線	10
訪日外国人増→家庭紙堅調 製紙大手、高機能開発競う	
くらし2017	12
帯状疱疹、対処は早めに	
広告珍談	14
広告はたのしい④⑤ 瀬戸内海の客船	
NNAアジア経済レポート	15

事務局だより

◇8月定例講演会

2017年8月31日(木)

午後1時30分～3時

ホテルモントレ横浜3階「ビクトリア」

講師は同志社大学大学院ビジネス研究科教授の浜矩子さん
演題は「経済政策は何のため、誰のため～『アベノミクス』をめぐる～」

視点 点描



気になる市長選挙の結果

注目の首長選挙が続く2017年度。4月の当欄で、6月の横須賀市長選、7月末の横浜市長選と秋の川崎市長選について見通しを含めて書いたが、既に横須賀と横浜の結果は出た。

まずは横須賀市長選。吉田雄人市長(当時)側に献金していた人物を市職員に採用した問題などが追及されてきたことに触れ、「公

選法に違反する恐れを認識しながら観光船の割引サービス案内を記載した名刺を使用し続けた疑惑がここにきて浮上。対抗馬としても市議選で連続してトップ当選を果たしている上地克明氏が出馬を表明しており、過去2回の市長選と異なり、守りの選挙を強いられるのは必至だ」と書いた。結果は、上地氏が1万2千票差

をつけて快勝。吉田氏は前回の再選時よりも1万8千票あまり得票を減らし、8年前の初当選時と同程度の票しか獲得できなかった。

一方、横浜市長選に関しては、元衆院議員の長島一由氏が「反カジノ」を掲げ走り出す中、カジノを中心とする統合型リゾート施設(IR)誘致に前向きな姿勢を示していた林文子市長が発言を後退させたことを挙げ、「発言の変化はカジノの争点化を回避したい思いがある」と考えるのが自然。「林氏が展開を有利に進めるにはカジノのインパクトをしのぐ論点の提示が必要だろう」と指摘した。

こちらは後に反カジノを主張する前市議の伊藤大貴氏が出馬して構図が変化。林氏は新人2氏を大差で退け、3選を果たした。

神奈川新聞が実施した出口調査では、カジノを含むIRの誘致は、「すべきではない」が61.5%、「す

べき」が16.3%と、カジノに対する根強い拒否感が示された。林氏は「すべき」と答えた人の8割超、「すべきではない」とした人からも3割超の支持を集めて反カジノの新人2人をいずれも上回り、カジノの争点化を回避した戦略が奏功した形となった。ただ、長島氏と伊藤氏の得票を合わせる と全体の46%に上り、反カジノ陣営が割れたことがプラスに働いたことは否定できない。

選挙戦で林氏はIR誘致に関し「今は白紙」と態度を明確にしたかった。一方、伊藤氏を擁立した民進党の江田憲司代表代行は「民意を無視しカジノを強行すれば市長のリコール運動を検討したい」との見解を示している。3選を果たしたものの、林氏にとってカジノは鬼門であり続けるだろう。(神奈川新聞社経済部長

渋谷 文彦

瀬戸内海の客船

ボクがはじめて、フネを見たのは大阪。幼いころ、住まっていたウツボのごく近くに、ポンポン蒸気が行ききしていた。

幼稚園のころ、その音が聞こえてきて外を見ると、先生にしかられた。なのにその先生も、フネ大好きらしく、窓の外を見てたよ。

シウキットンという番頭さんが、自転車の荷台にしばりつけた箱にボクを乗せて、なんだか天保山栈橋へ連れてってくれた。ウツボのポンポン蒸気より、もっともっと大きなフネがいっぱいいた。九州別府と大阪を往復する、関西汽船のフネだと知ったのは、大きくなってからである。

関西汽船は瀬戸内海航路のため、1942(昭和17)年に設立された。前年、真珠湾攻撃。太平洋戦争に

突入。ボクは京都の小学校(その年、国民学校になる)に入学した。45(昭和20)年、敗戦。GHQはすべての造船禁止を発令した。ようやく解禁され、人びとの気持ちもやつと落ちついて、旅をたのしめるようになった。

図①をどうぞ。関西汽船のパンフレット。図②は60(昭和35)年に建造された別府から大阪へ航行する、瀬戸内海航路の客船「くれない丸」(手前)「むらさき丸」(後方)の姉妹船。いずれも2928トン、全長86・70メートル。幅13・40メートル。速力19・7ノット。旅客定員1109人。みどり色と、白色に塗りわけられた船体。白線をまいた、みどり色の太い煙突。新しい

客船就航と、阪神の人たちはわいした。

大阪を7時20分、神戸を8時40分に出航。別府からは23時に出航して1泊する。毎朝10時すぎ、淡路島西方の播磨灘ですれちがった。

1960(昭和35)年、ボクは別府からむらさき丸に乗った。客室は4層。図③の豪華なラウンジ。ジュークボックスが備えられた

「娛樂室」では映画の上映。トリス全盛期で洋酒なんぞ、まだまだ高級品だったけどバーもあった。

1晩だけなのに、散髪するかねと思ったけど理髪室もある。愛煙家だらけで、やたら広くてりっぱな喫煙室もあった。食事は83人収容のダイニングサロンと、66人の一般食堂に分けられていた。

図④はボクが泊まった「特別室」、いちばんりっぱな船室。なにしろ新婚旅行だから、あつたりまえでしょ。そのころバスつきはまだなく、小さな共用浴室が2カ所だけ。外が見えない、閉鎖的な風呂場である。

料金はツインベッドの特等は900円、2段ベッドの1等は600円、ごこ寝の2等は300円。そのころ、東京・大阪間の鉄道は1070円。瀬戸内海航路は、なかなか値打ちあると思う。もっとも食事代は別だったけど。

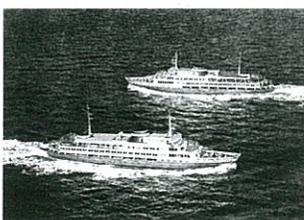
(美術エッセイスト、茅ヶ崎市在住)



①



③



②



④